森林工芸館の あれ これ

no.21
12
2021

オケクラフトの歴史については
「はじまりの一歩」として
誕生の背景にあった
置戸の社会教育の歴史
「オケクラフトの誕生」として
誕生の年 怒濤の一年
についてお伝えしてきました

今回は
「動き出した オケクラフト」
誕生の翌年について
木製学校給食器の導入への動きや
作り手養成塾 などの研修生制度
誕生から今日までつづく
オケクラフトの基礎が
この年に作られていきます
歴史のあれこれ ご紹介していきます

NO.3 オケクラフトの 歴史 since.1983

動き出したオケクラフト

人と、木と、おけと

OKE CRAFT オケクラフト

1984年

1月　◎ 帯広北ッ子展 pick up 開催
◎ 木製お椀耐久テスト…学校給食器に向けて

→２４日～２９日を会期に、帯広の百年記念館を会場として開催。東北・北海道の生活工芸品約 400 種類 2,000 点が並べられた。北ッ子展は「作り手と使い手」が直接話し合える場所として計画され、北海道では置戸町と帯広で取り組まれた。

2月　◎ 第１回 白い器 オケクラフト展
◎ 木製学校給食器 試作モデル発表

→２月１９日「第６回町民憲章推進大会」が開催。併設展として「第１回 白い器オケクラフト展」pick up が開催され、ここではじめて置戸町民にオケクラフトが披露された。さらに木製学校給食器の試作モデル pick up も展示された。

7月　◎ オケクラフト作り手の研修制度開始

→当初、裏作工芸として始まったクラフト製作は、オケクラフトの誕生と東京での「白い器展」の盛況により、生業として希望する声があがり始めた。さらにはまちの産業としてオケクラフトを進めていく機運の高まりから、作り手の養成が急務の課題に。研修終了後、町内で生産活動に従事することを条件とした研修制度 pick up が始まった。

8月　◎ 白い器料理教室

→オケクラフトの活用提案として、器にあった料理開発のために、山崎純子氏が置戸に呼ばれた。

世界の味から郷土料理を作ろうとするもので、郷土の素材を使いながら新しい味覚の開発を狙った。

▶白い器料理教室の参加者から「とれびあん」が誕生した。

11月　◎ 鹿ノ子観光センター落成式

→オケクラフトの提供 / とれびあんによる料理の提供

pick up

北ッ子（ホッコ）

北ッ子とは、秋岡さんが中心となり、「東北、北海道の伝統工芸や新しく起きている工芸の振興を図るために、心を寄せる人たちで組織を作り、守り育てていこう」とするもので、一九八〇年に岩手県大野村での東北工業大学の実践の中から提案されてきたもの。

帯広北ッ子展の様子

白い器オケクラフト展

町民憲章推進大会の併設展として開催された「白い器オケクラフト展」では、スポーツセンターを会場として盛皿や曲輪など、六百点以上の商品が並び、その日のうちに五百点弱が購入された。また、およそ百点の予約が舞い込むなど好評を博した。

白い器オケクラフト展会場

木製給食器モデル

「白い器オケクラフト展」で参考品として展示された学校給食器にも多くの関心が集まり、実現に向け給食センターや学校現場との検討・試作が重ねられた。

「地域の素材を使って、地域の生活文化を豊かにする。」この発想のもと生まれたオケクラフトの活用が進められていった。

木製給食器導入の様子

研修制度

【研修目的（当時のもの）】

専門的個別指導により、総合的な高度加工技術、知識を蓄積した人材を養成するとともに試作品の製作等開発センターとの充実を図る。研修期間は一年。研修項目は、生産加工技術、工芸知識、流通知識である。

オケクラフト研修生の様子